

野菜の地方品種と地域生活 の関わりに関する研究

藤田 智(園芸文化研究所)

1. 研究の目的

交雑第一代 (F1) 植物がその両親より優れた性質 (収量や品質) を有すること (雑種強勢) とその形質の均一性が注目され、近年、野菜の実用品種のほとんど大部分が一代雑種で占められるようになった。しかし、その一方で地方の生活文化と密接に結びついて発展してきた地方品種は衰退し、中には消失してしまった品種も数多い。野菜品種はまさに文化の所産であり、その消失は日本文化の消失、遺伝資源の消失にもつながるきわめて重大な問題である。そこで本研究では、「野菜の地方品種と生活文化」のテーマを掲げ、日本各地で現在も栽培されている野菜の地方品種の文献的および現地調査を行い、地方品種の現状について検討を行うものである。

2. 研究の方法

野菜の地方品種の現状を把握するために、文献的および現地調査を行った。文献的調査では、農水省野菜試験場および各都道府県の野菜関係の試験場報告、地方自治体や農協などが発行している農業・園芸関係の歴史書などを収集し、現存および消失品種の都道府県ごとの分類を試みた。また、現地調査は、2001年9月から現在まで、15都府県34市町村を訪問し、54品種の現状を視察した。

3. 文献的調査

収集した文献から、現在までのところ、17科53種の野菜について、地方品種の詳細な調査を行っている。また、消失品種についても、18品種の確認を行っている。

4. 現地調査

調査した 54 品種は、各都府県ごとに以下のとおりである。秋田県（ジュンサイ、秋田フキ）、岩手県（二子イモ、芭蕉菜）、山形県（民田ナス、ダダチャマメ、もつてのほか）、宮城県（仙台ナガナス、チャマメ、ミョウガタケ、セリ）、新潟県（ヤキナス、十全ナス、チャマメ）、群馬県（下仁田ネギ）、埼玉県（金時イモ）、東京都（軟白ウド、のらぼう菜）、神奈川県（三浦大根、大山菜）、静岡県（ワサビ、石垣イチゴ、水かけ菜）、石川県（キンジソウ、小坂レンコン、五島金時、薺紫ナス、金沢太キュウリ、打木源助ダイコン、打木源助カボチャ、金沢白菜、金沢青カブ）、岐阜県（守口ダイコン、飛騨赤カブ、飛騨一本太ネギ）、京都府（賀茂ナス、山科ナス、鹿ヶ谷カボチャ、伏見トウガラシ、万願寺トウガラシ、九条ネギ、ミブナ、ミズナ、ウグイスナ、聖護院ダイコン、聖護院カブ）、大阪府（水ナス、えびイモ）、沖縄県（ニガウリ、ヘチマ、トウガン、田イモ、モーウイ）。

5. 公表した記事など

調査を開始した 2001 年 9 月から 2004 年 3 月までに公表した主な記事は、下記の通り、地方品種が 4 種類、消失品種（ないし消失危惧品種）が 8 種類である。

- ①波多野（秦野）大根は、本当に明治中期に失われてしまったのか？NHK 趣味の園芸 4 月号：67. 2002.
- ②失われた江戸の名物、滝野川人参. NHK趣味の園芸 7 月号：61. 2002.
- ③消えゆく焼畑カブ（火野カブ）. NHK趣味の園芸 9 月号：61. 2002.
- ④タネなしスイカ. NHK趣味の園芸 1 月号：67. 2003.
- ⑤砂村ナス. NHK趣味の園芸 3 月号：84. 2003.
- ⑥石垣イチゴ. NHK趣味の園芸 5 月号：82—83. 2003.
- ⑦ハクラン. NHK趣味の園芸 5 月号：84. 2003.
- ⑧のらぼう菜. NHK趣味の園芸 6 月号：65—66. 2003.
- ⑨居留木橋カボチャ. NHK趣味の園芸 6 月号：67. 2003.
- ⑩三河島菜. NHK趣味の園芸 9 月号：85. 2003.

⑪東京ウド（軟化ウド）. NHK趣味の園芸 12月号：101—102. 2003.

⑫水かけ菜. NHK趣味の園芸 2月号：87—88. 2004.

19 世紀前半における植物学の 近代化と女性の囲い込み： ラウドン夫妻を事例として

新妻 昭夫(人間環境学科)

表記の目的で、2004年3月の26日（金曜）、29日（月曜）～31日（水曜）にかけて、ロンドンにある王立園芸協会（The Royal Horticultural Society）のリンダリー・ライブラリー（The Lindley Library）で資料の探索を行った。

その間に、ウィズリー（Wisley）にある王立園芸協会の庭園、キュー（Kew）王立植物園、大英博物館で、新刊の関連書を調べ主要なものを購入した。またオックスフォードに近いリュウシャム（Rousham）の風景式庭園も見学した（William Kent 設計・施工、18世紀前半に作られたこの様式の庭園としては現存する唯一とされる）。

収集した資料の整理はまだ十分とはいえないが、今回の調査の結果を列挙すると、以下のような点にまとめることができる。

- ① 調査のタイミングは、偶然にも、最適だったのかもしれない。今年（2004年）は王立園芸協会（RHS）の創立200周年にあたり、『RHS 200年史：1804-2004』（Elliot, 2004）という大冊が協会自身によって刊行されたばかりであった。これが基本文献となることはまちがいないが、年